

(様式1)

1 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成 25 年 11 月 25 日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3470202569		
法人名	株式会社 松 広		
事業所名	グループホーム舟入		
所在地	広島市中区舟入川口町17番10号 (電話) 082-296-5601		
自己評価作成日	平成25年11月1日	評価結果市町受理日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/34/index.php?action_kouhyou_detail_2013_022_kani=trve&JigyosyoCd=3470202569-00&PrefCd=34&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	一般社団法人 広島県シルバーサービス振興会
所在地	広島市南区皆実町1丁目6番29号
訪問調査日	平成25年11月20日

【事業所が特に力を入れている点、アピールしたい点（事業所記入）】

<ul style="list-style-type: none">・家庭生活と同様に安全で楽しく自己実現が出来、何時までもその人らしく尊厳を持って生活できる介護を目指している。・個別ケアに重点を置き個別援助計画を作成、計画に基づいた統一ケアやチームケアの実践に努めている。個別カフェやアロマセラピーの取り組みは個々のふれあいを大切にしている。・地域連携の大切さを知っており、地域行事への積極的参加をし、運営推進会議では事業内容を地域に熟知して頂き、職員による道路の清掃や、地域の方々が施設に出入り頂く機会として事業所行事のバザー、カフェを実施、地域との関係構築を図っている。・終末ケアは人間らしいケアであり、命の尊さを学ぶ貴重な時を職員は一体となってこれに取り組んでいる。・研修が充実している。外部研修、内部研修は気づきや振り返りの機会であり、介護の基になっている。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

<p>「毎日を生き生きと自分が自分らしく自分の回復」の理念の下、本人が望まれる生活習慣を大事にし、それを維持するように努めている。また、職員は出勤したら、利用者お一人ひとりと笑顔で挨拶を交わし、笑顔が見られない方に対しては、個別に関り笑顔を引き出すようにしている。利用者毎に担当を決め、時間をかけて利用者の思いを把握し、「介護個別援助」を作成している。それをもとに、職員が役割分担をし、チームとして支援して利用者の要望を実現するよう取り組んでいる。「利用者に喜ばれ、食べやすい食事」を提供したいと考え、ソフト食を勉強し活用したり、料理コンテストを行うなど職員全員で取り組んでいる。法人として、様々な研修や困難事例検討会を行い職員を育てる取り組みを行っている。</p>

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	理念、事業のサービスの達成に向けて、年度事業計画を策定し、計画に基づいた実践に努めている。職員会議・職員研修・新人研修に、理念(自立支援・自己選択)を日々の介護に生かす勉強をしている。サービス計画も理念に基づいたプランを建てている。	法人理念「毎日を生き生きと自分が自分らしく自分の回復」を、毎日の引継ぎ時に唱和している。法人の理念の下に、事業所のより具体的な「行動指針」を毎年職員全員で決め、毎日の介護に取り入れている。年度末には評価も行っている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	近隣の高校・小学校・保育園へ行事、公民館祭り自治会主催祭・盆踊りにも町内会会員として参加している。地域の方がボランティアとして立ち寄って下さる。職員は地域道路清掃を行っている。バザー、舟入カフェは気軽に立ち寄って頂く機会、ご近所の気軽な交流の場となっている。	近隣の保育園とは、運動会や茶会へ参加し、また保育園から事業所のバザーへ参加があるなど相互に交流をしている。夏祭りなどの地域の行事には、町内会から声を掛けて頂き、参加している。事業所前の道路清掃を職員が自主的に行い地域に貢献している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げていく認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	近所の認知症の方についての相談に対応している。認知症アドバイザーとして認知症サポーター養成講座にも出掛け、理解支援を呼びかけている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	実施した事業・サービスを報告することにより、各委員から意見を頂く。グループホーム独自では考えつかないアイデアをもらっている。ボランティアの紹介も頂いている。一緒に防災訓練もしている。	運営推進会議には地域住民が、毎回多数参加し、活発な質疑応答や意見交換をしている。地域住民から事業所へボランティアを紹介してもらい、活躍してもらっている。会には消防職員も出席することもあり、実際の火災や避難について貴重な話を聞き参考にしている。	
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取組んでいる。	窓口相談に行く、電話で連絡をとる等の回数を増やしている。新聞とパンフレットを届けている。年1回運営委員会に出席いただいている。運営委員会開催報告書は2ヶ月に1回提出している。	市の担当者や地域包括支援センターとは利用者の相談をしたりアドバイスを受け、連携して利用者の支援を行っている。地域包括支援センターが主催する講演会で、事業所職員が講師をし協力している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。</p>	<p>職員会議等で虐待について職員間で話し合い日頃気付きにくい「言葉の虐待」等への注意を払うことの意識統一を図っている。</p> <p>「点滴中の拘束」転落防止のベッド柵、玄関の施錠等しないケアを守っている。</p>	<p>身体拘束や虐待については、積極的に研修を行い、職員に周知している。また、「言葉による強制」や「命令口調」についても、注意を払い、適切な言葉使いをするように取り組んでいる。</p>	
7		<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。</p>	<p>虐待防止に関する内部研修をもち、あらゆるケースにおける虐待を知り見過ごすことなく防止に努めている。</p>		
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。</p>	<p>研修等で学ぶ機会を得ている。必要としている方へ学んだ知識をお伝えしている。</p>		
9		<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>	<p>契約の際は利用者・家族に納得いただくため本文を読み上げ、理解いただいている。ご理解いただいた上での締結となるよう努めている。</p> <p>解約、長期入院等ご家族の不安疑問点に必要な都度対応して理解納得頂けるよう努めている。</p>		
10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>常に利用者に意見を聞き（ケア改善）に役立っている。</p> <p>家族会で家族からの意見要望を聞いており、必要としている事（健康管理等）に重点的に支援している。</p>	<p>家族が来訪された際には、介護記録を読んで頂き、家族の質問に答え、意見や要望を聞くようにしている。年に3回家族会を開催し家族の意見や要望を聞いている。夏は納涼祭、秋はバザーと共に行うので、毎回多数の家族が参加されて利用者と一緒に楽しまれている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	月1度の代表者(法人5事業所各代表者)の会議。代表者会議において事業所の運営に関する協議、検討を行っている。コアタイムは職員会議であり職員の率直な意見交換をし、みんなの意見を吸い上げている。リーダー・サブ会は各ユニットのリーダーが集まり(月2度) 情報を共有している。	リーダーは職員の意見や要望を聞き、リーダー・サブリーダー会で意見を取りまとめ、職員会議で検討している。その後、代表者会議では、法人に所属する事業所代表が集まり、意見交換をし、運営に関する協議を行っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	介護職員業務自己評価シートや、スタッフ個人目標達成評価表(キャリアパス対応)の提出後、個人面接をし職員の思いややる気支援をしている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	職員の業務姿勢及び能力の質量共に向上に努めている。 管理職研修、現任者研修の内、外部研修を年間通して行っている。新人研修は採用時に、確認研修として6ヶ月後共に行っている。 月1回職員ミニ研修をしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	県・グループホーム協会・グループホーム・通所対象・ぼちぼちネットへ入会・活動参加交流、質の向上を図っている。 江波県域グループホーム情報交換会の会員交流として各施設訪問をしている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	入所前の面接により、不安なこと・求めている事等を聴く機会を持っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	入所前見学を頂き、利用内容等の説明と共にご本人のことご家族の思い等を聞いている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	適切な情報収集及び課題分析に努めており、必要とされるサービス内容を具体的に実践出来るよう図っている。上記時、ご本人の要望・家族の要望を必ず聞いている。関係作りを意図した対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	出来るのにしておられなかった事等を把握し、他のご利用者と共に役割作業に関わって頂くように努める。掃除・料理作り等その人の能力に合わせたお手伝いを頂き、その間その方の知恵を教えてください。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	御本人の生活の様子をご家族に報告するよう努めている。御本人の状況をご家族と共有することにより必要時に連携しながら支援させて頂ける。家族会をもち、家族間の思いを話し合ってください。又、来所の折りも家族の喜び悲しみを聞かせてもらっている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	家族はもちろん元住んでいた近所の方・友人が来られたとき、部屋でゆっくり話をしてもらっている。定例よくしょう会等で外出行事の行く先選定をする時、それぞれの方の馴染みの場所が選定用件の一つになっている。	利用者の家族や知人が来られたら、各居室でゆっくりとくつろいで頂けるように、お茶を出すなど気を配り、関係が継続できるように取り組んでいる。「よくしょう会」で出された馴染みの場所へ一緒に行くこともある。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	気の合った仲間を大切にゆっくと交流する場所の確保。また、支え合う気持ちを大切に自分がこの人の世話をしたいとの思いも大切にしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	退所して他所におられる方を訪問したり、亡くなられた方の墓参りをするなど関係を大切にしている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いやりや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	本人の意向を大切にしている。暴言等では対応困難等多々あるが、職員と一緒に本人の意向を検討している。本人の意向をケアプランに活かしている。	利用者毎に担当者を決め、利用者ゆっくと関る時間を持ち、各人の思いや意向を把握している。担当者は利用者の要望を「個別介護援助」シートに記入し、職員が役割分担をし、チームとして利用者支援し、要望の実現につなげている。アロマテラピーの際に、吐かれた思いもケアプランに活用している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入所時に家族から生活歴等の情報を得ているが、本人からも一緒に生活しながらあらゆる場面でこれまでの暮らしを教えてもらっている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	毎日の記録（ケース記録）の中に、心身状態を時経過で記録しており、出来る事の把握を総合的にしている。一人ひとりの担当職員が個別対応している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。</p>	<p>スタッフ全員で月1回利用者一人ひとりについてカンファレンスを開き協議検討を重ねた後、ご家族・ご本人の希望を聞きケアプランを作成している。モニタリングをすることにより、その方の現状に即したプランの見直しもしている。</p>	<p>利用者毎に担当者を決め、担当者はモニタリングを行い、ケアカンファレンスで報告している。カンファレンスでは、他の職員の意見を聞き、最終的にケアプラン作成者がケアプランの見直しを行っている。</p>	
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。</p>	<p>日々の記録を個別記録（ケース記録）に克明にしている。（記録用紙を独自のものを作り使用している）この記録を共有し、又ケアプラン作成に向けて職員一人ひとりが自分の持っている情報を反映している。</p>		
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。</p>	<p>通院支援・四季体験のための外出支援をしている。重度化された場合、終末に関しても家族が希望されれば医師との連携のもとに対応している。</p>		
29		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。</p>	<p>地域包括支援センター、近隣の医療機関との強い連携、運営推進会議メンバーのご協力がある。御本人のご希望での保育所・小学校・高校・公民館への訪問参加。近くの店まで買い物、公園、川土手への散歩、近隣の方々のおしゃべりもしている。</p>		
30	11	<p>○かかりつけ医の受診診断</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。</p>	<p>協力医とすでに馴染みの関係にあり、個人別体調も把握されており信頼関係にある。職員は常に利用者の体調を把握しており、受診を共にしている。</p>	<p>かかりつけ医は家族の要望で決められ、其々のかかりつけ医に受診している。事業所の看護師は、利用者の健康状況を把握し、必要があれば、医師と連絡を適切に対応している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	看護職の職員と介護職員の連携で日常の内部の健康管理をしてもらっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院先の病院に度々見舞い、医師・看護師に今後の見通し、退院時期を聞く等情報交換を図っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	ご入居契約時、終末期のご意向の確認、事業所の方針、支援内容、協力医対応可能要点を説明している。重度化時に医師確認書を作成。家族・医師・GHの三者懇を持ち、今後予想される状態を確認し合う。その後GH側に持ち帰り情報を共有する。家族会等において対応しうる支援(尊厳に重点をおいた)を機会毎に伝えている。	入居契約時に、終末期に対する家族・本人の要望を確認している。その後、重度化した際には、家族・医師・ホーム管理者による三者会議を行い、今後予想される状況について話し合いを行う。その後、個々の支援策を検討し、適切な支援を行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	新人研修、現任研修において、災害時対策として消防署から訓練を受けている。看護師による内部講習会も開いている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	定期的に消防署に要請し、避難訓練をしている。緊急マニュアルを作り、職員に徹底している。地域との協力体制を得るための試みも図っている。	年に2回の定期避難訓練は、夜間を想定した訓練を行っているが、それとは別に消防職員が立会い避難訓練を実施している。地域住民の間では、災害時に、建物外に避難させた利用者を見守ってもらうという協力体制が整っている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	月1回職員会議ではご本人の尊厳にかかわる声かけ（プライバシーにも配慮した）対応等の意識向上を図っている。個人情報の漏洩の無いよう記録の管理は徹底している。	「人格の尊重」は非常に重要であると考へ、研修を通じて職員に徹底している。トイレ誘導の声かけは、回りの人に聞こえないようにし、トイレでは、大きな声で話さないように指導している。汚れたパットなどは、小さいトートバッグに入れ、汚物と分らないように配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	一人ひとりを尊重、自己決定（トイレ・口腔ケア等）を大切にしている。職員の一方向的な決め事を押しつけない。必ず本人の確認を得た上でケアを行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	一人ひとりの体調に合わせて買い物や散歩に誘っている。その方の気持ちに添うようにしている。朝食もご本人の目覚めを待って提供している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	本人が選んでもらったり、あらかじめ用意（選べない人）したものを着ていただく。その後職員がコーディネートする時もある。散髪はボランティア（有料）に来てもらっている。（それぞれの好みの髪型に）		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	利用者と一緒に育てた野菜が食卓に並ぶ。メニューは相談して決める。一緒に調理をしたり、片付けをしている。	利用者に喜ばれ、食べやすい食事を提供するように職員全員で取り組み、年に4回、職員による「料理コンテスト」を行い、互いに研鑽している。軟らかくて食べやすい食事に関して、「ソフト食」を勉強し、雑煮の餅やおはぎなどに利用し、利用者に提供している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		<p>○栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス，水分量が一日を通じて確保できるよう，一人ひとりの状態や力，習慣に応じた支援をしている。</p>	<p>食事摂取状況を毎日記録している。水分摂取についても把握している。水分量が少ない方には色々工夫して摂って頂いている。一人ひとり状態に合わせて食事形態を考慮している。</p>		
42		<p>○口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないように，毎食後，一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。</p>	<p>毎食後、確実に歯科衛生士（月/2 口腔指導）の指導のもとに全員の口腔ケアを行っている。</p>		
43	16	<p>○排泄の自立支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし，一人ひとりの力や排泄のパターン，習慣を活かして，トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。</p>	<p>一人ひとりの排泄パターンを把握し、トイレ誘導・ポータブルトイレに座ってもらっている。</p>	<p>各人の排泄パターンを把握し、トイレ誘導を行っている。排便に時間がかかる人に対し、ウォシュレットを利用したら排便の時間が短縮された事例をふまえ、他の利用者にも普及させようと取り組んでいる。</p>	
44		<p>○便秘の予防と対応</p> <p>便秘の原因や及ぼす影響を理解し，飲食物の工夫や運動への働きかけ等，個々に応じた予防に取り組んでいる。</p>	<p>散歩・園芸等で身体を動かす事による便秘解消を図っている。また、自分の意志で行動が出来ない方など時間を見てポータブルトイレに座っていただくことにより、自然排便をしてもらっている。</p>		
45	17	<p>○入浴を楽しむことができる支援</p> <p>一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように，職員の都合で曜日や時間帯を決めず，個々に応じた入浴の支援をしている。</p>	<p>その人の希望に合わせた入浴支援をしている。プライバシーに配慮した個別対応はもとより、入浴時間や回数についても出来るだけ希望を聞かせて頂き対応させて頂いている。</p>	<p>入浴時間は、利用者の要望に沿って実施し、週に3回程度入浴している。一人で入浴可能な方に対しては、浴室の外に待機し声かけを行い、自分で体を洗ってもらうようにしている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	昼食後午睡をすることで、身体的休息をしていただいている。夜間寝付けない時は添い寝をしたり、温かい飲み物を飲みながらおしゃべりをしたりして穏やかな安心の時間を共有し安眠への支援をしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりを使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	薬の目的・副作用・用法を記入したシートを作っており情報を共有している。症状変化時は時をおかず医師に連絡処方をお願いしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	1対1の関わりを大切にまた、喫茶店、個人的な買い物、部屋の片付け、部屋の中で個別に会話を楽しんだり、添い寝をしている。個々人の好みにあった仕事をお願いしている。台所仕事、掃除、生け花、抹茶を点てる。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	車イスの方であってもローテーションを作って戸外に出かけていただく支援をしている。天候の良い日は外（例：公園等）での昼食会もある。買い物ツアーとして車で出かけることもある。	天気の良い日にはできるだけ散歩するようにし、車椅子の方もお連れしている。また、時にはお弁当を持参し近所の公園で食事することもある。「よくしよう会」や「わくわく体験」で提案された場所に出かけることもある。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	紛失をしたり、仕舞い忘れによるトラブルを避けるため、小遣いを預かる場合もあるが、立て替え払いが主である。買い物はご希望により一緒に出かけている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	希望があれば電話をかけてもらっている。家族からの電話へは出てもらっている。家族から手紙とか品物が来た時は手紙を書いてもらっている。		
52	19	○居心地の良い共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	リビングと台所が近くまな板の音、味噌汁の香り等五感を刺激する。そこには季節の花があり、貼り絵等は季節感を大切にしている。	書道や絵てがみなど利用者の作品を壁に掲示している。ソファで居心地よく過ごしてもらえるように、体が傾かないようクッションを利用し、姿勢を保つようにしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	一人ひとりの好みの場所があり、仲良く3人組でソファにいつも座っていたりする。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	写真（家族・本人）を飾ったり、手作りカレンダーなど個人個人個性あふれる部屋となっている。居室はその方の家であるとの認識で家族訪問時の食事は一緒にその部屋で食べていただく。	今まで使われていた家具、時には仏壇など個人の馴染みの品を持ち込んで、住みやすい居室としている。就寝時の転落防止にも配慮し、マットを使用するなどその方に合った寝具を用意している。	
55		○一人ひとりの方を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	バリアフリーの風呂場・トイレに立ち上がり易いように手摺りがあり、動線上のリビング等も少しでも歩いていただいで機能保持、回復につながる様手すりがある。		

V アウトカム項目 (2F)			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	<input type="radio"/> ①ほぼ毎日のように <input type="radio"/> ②数日に1回程度 <input type="radio"/> ③たまに <input type="radio"/> ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係やとのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	<input type="radio"/> ①大いに増えている <input type="radio"/> ②少しずつ増えている <input type="radio"/> ③あまり増えていない <input type="radio"/> ④全くいない
66	職員は、生き活きと働けている	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> ②職員の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③職員の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ②利用者の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③利用者の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> ②家族等の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③家族等の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどできていない

V アウトカム項目(3F)			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係やとのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
66	職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が ②職員の3分の2くらいが ③職員の3分の1くらいが ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の3分の2くらいが ③家族等の3分の1くらいが ④ほとんどできていない

(様式2)

2 目標達成計画

事業所名 グループホーム舟入

作成日 平成25年12月26日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点, 課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	2	事業所と地域とのつきあい隣は何をする人ぞ的な風潮はあるが、地域に溶け込めない事業所自体が地域の一員として日常的に交流する。	互いに仲間として協働できる地域にする	近所の方と出会うと大きな声で挨拶をする。認知症介護保険の勉強会をする。	6ヶ月
2	10	運営に関する利用者家族等の意見の反映 意見要望は家族会・GH舟入をよくしよう会等で表せる機会を設けているが充分でない	意見・要望を表出できる場を持つ	開催場所会議室をユニットに代えて利用者の中で運営委員会を聞き意見を言ってもらおう。家族も案内を出して出席いただく。1/6ヶ月	2月から
3					
4					
5					
6					
7					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。